



# セミナー通信

## 「教育実習総合センター」

### 小学校教員養成特別コースP2生 実地研究Ⅰ・Ⅱを終えて!!

今年度も、小コースP2生が多くの連携協力校で、実地研究Ⅰ・Ⅱあわせて12週間の実習をさせていただきました。校長先生をはじめ、メンターの先生、教職員の皆様、児童の皆さんありがとうございました。実習生にとって、児童と関わり、先生方にご指導いただきながら過ごした実習中のすべての経験が、将来の教師力につながる学びとなったはずです。実地研究Ⅰ・Ⅱを終えた実習生2名の感想を掲載します。

#### 周りを見渡す視野の広さ

TSさん

実地研究で最も変化したことは、周りを見渡す視野の広さです。最初は、出来るだけ先生方の迷惑にならないように日々を送るだけでした。しかし、授業やその他の様々な仕事を任せていただくなかで、周りを見渡す余裕や自信がうまれてきました。実地研究後半には「学級や学校のために自分ができること」を常に意識して取り組むことが出来ました。毎朝、黒板に「日々のこと」を書いた出来事や児童へのメッセージを書いたこともそのうちのひとつです。通勤電車は黒板に書くことのネタ探しでもありました。また楽しい時間でもありました。

#### 「恩返しする」児童の一言

TYさん

児童の一言が私を変えてくれました。初めの一か月は児童との距離感がつかめず、授業も思い通りにいかず、先生方にも子どもたちにも本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。そんな時、担任の先生が児童に私の研究授業のことを伝えてくださったところ、「めっちゃお世話になってるから、T先生に恩返しする」と児童が言ってくれました。その言葉で、弱気な消極的になってしまっていた自分を深く反省し、積極的に



3月号

楽しむという前向きな気持ちになることができました。それ以来、児童との距離がグッと近くなりました。かけがえのない先生や児童に出会うことができ、教師という仕事のやりがいや強さを強く実感することができた実地研究でした。



#### 連携協力校

### 校長先生からのメッセージ

四月から学校現場に出る皆さんや教員を目指して頑張っている皆さんに、日頃お世話になっている連携協力校の校長先生から、メッセージをいただきました。

#### これからの若い先生に望むこと

三田市立藍小学校長 植田 敦之先生



プロ野球の大谷翔平選手は打つ、投げるの「二刀流」選手として有名です。私たち教員の場合はどうでしょうか？教師に求められる資質や能力は多岐にわたって議論されていますが、大谷選手のように同時に「二刀流」をこなす器用な教師でなくてもいいですが、「不易と流行」という二つのことを常に意識できる「二刀流」教師でありたいと思っています。

小学校の業間休み。子どもたちが一斉に運動場を駆けていきます。子どもたちの中にいる若い先生。子どもたちと自然に、完全に解け合って遊びに夢中になれる先生。ゲームやアニメ、ファッションやお笑いなど、今の流行に子どもと一緒に解け込んでいく先生。友だちどうしの遊びの中に「いじめ」「いじめ」をキヤッチした先生。毅然とした態度で「ダメなこと」と子どもを前に導き、子どもを育てる先生。

「不易と流行」。この二つは毎日の学校生活のどの場面にも見られます。つまり、日常生活そのものの視点で子どもを育てましょう。教育の最終的な目的は、「一人を社会化する」といって、私は思っています。



#### 謙虚に学び続ける人

伊丹市立花里小学校長 塩見 佳則先生



これから教師になられる方たちに、次の言葉を贈ります。

一つ目は、教師は子どもにとって最高の教育環境であり続けなければなりません。謙虚に学び成長し続けなければなりません。では、教師の成長はどこで止まるのか？それは、人から刺激を受けなくなった時、そう言った時に、人は、人に刺激を与えることができなくなると言われています。だから学び続ける人にならなければならない。そうしないと、児童は退屈でやりきれない気持ちになつてしまいます。

二つ目は、子どもの悪口は言わないことです。注意すること、指導することは大事ですが、関わりの中で腹立ち紛れに悪口を言う教師がいます。しかし、それは教育する資格の放棄であり、敗北です。

#### 子ども一人一人との関わりを大切に

高砂市立米田小学校長 加茂 朋之先生



学校生活において、子どもを受け入れ、支援、指導することが大切なことです。

ある学級の授業風景を一周間記録した調査番組の中で、その間一度も指名されない子どもが存在していたということがありました。(教師は全員を指名しているという認識があるにも関わらず。)この事実から考えると・・・感覚だけの「しているつもり」という落とし穴に陥っていることがうかがえます。

一日、ほんの五分、十分でもいいのです。子どもに関わった振り返りをするこによって、「できていたこと」「できていなかったこと」「しなればならないこと」が認識できるようにになります。そこに、「気づき」があり、「知る」ことになり、早期の子どもへの関わり・支援・指導・対応が生まれてきます。

まずまず課題を抱える教育界ではありませんが、「しているつもり」ではなく、「している事実」の積み重ねを大切に子どもたちの成長に関わってほしいと思います。

#### これからの若い先生に望むこと

加西市立泉小学校長 楠田 次郎先生



自らの教師生活を振り返り、これからの教育を担う若者に三つのメッセージを贈ります。

一つ目は、「教育者として、ロマンと誇りをもって！」ということ。教育は子どもの未来を創り、地域や日本の未来を創る。未来を創る仕事に携わるのだというロマンと誇りを常にもつてほしいと思います。

二つ目は、「しなやかな人であれ！」ということ。教壇に立てば、思い通りにならないことの方が多いです。教師には、変化に敏感で、ものごと柔軟に対応できる「しなやかさ」が必要です。

三つ目は、「教師は、役者であれ！」ということ。役者は、表情豊かでユーモアがあり、言葉には絶妙の間がある。そんな、役者のような表現力を身につけてほしいと思います。

#### ★教探レポート

### 「先輩からのメッセージ」

### 私はこうして合格した！

2月1日にP1生、20日にはP2生を対象に、教探レポート「先輩からのメッセージ」が行われました。小学校教員養成特別コース、授業実践開発コースの先輩から、教員採用試験に向けた勉強法や実技試験対策、試験会場での心がけることなど、一人一人の経験に基づいた貴重なメッセージが、先輩に届けられました。後半のフリートークでは、より具体的な質問に親身になって答える先輩の姿が印象的で、先輩から後輩への「つながり」を感じることができました。

#### ◆勉強法・練習法の要点！

- ①学習指導要領の改訂など教育の大きな動き、受験地の教育施策、求める教師像、評価の観点などをしっかりと確認して対策を練ろう。
- ②筆記試験までに残された時間は少ない。今すぐ取りかかろう。過去問や自分が入った問題を繰り返し、1冊につき3回は繰り返し解こう。
- ③得意分野を伸ばすことも大切だが、それ以上に苦手克服が重要。試験日から逆算して計画的に取り組もう。
- ④計画通りに行かないこともある。毎朝、計画を確認し、修正しよう。短い空き時間も有効に使う。
- ⑤「みんな合格を」とは合言葉にチームで取り組もう。集団面接は勿論、個人面接、模擬授業もペアやグループで練習し、批評し合い、高め合おう。
- ⑥健康と体力が肝心。規則正しい生活を心がけてストレス発散も上手にやろう。



#### ◆論文・面接試験対策

教育課題に対する考えや思いを、端的にわかりやすく伝える練習をくり返し行おう。

気になること、気付いたことはメモに残そう。

面接では、表現力と同時に、傾聴力や協調性も観られる。コミュニケーション力を磨こう。

友達や教育実習総合センターの先生等に見てもらおう。

#### ◆模擬授業対策

時間、課題提示方法等は自治体によって様々。募集要項や過去問等で確認しておこう。

児童生徒が目の前にいるつもりで、表情、視線、音量、話し方などを意識して練習しよう。

発問は、短くわかりやすく。板書練習も大切。漢字の書き順にも注意しよう。

#### ◆実技試験対策

体育・音楽実技とも、児童生徒への指導ポイントを意識して練習しよう。

短時間でも、毎日練習しよう。

◎毎日の積み重ねが自信になる。頑張ろう！



#### 四月から教壇に立つ皆さんへ

「教育実習総合センター」から

四月から皆さんは、教育のプロとして児童生徒の前に立ちます。今、皆さんは期待と不安が交じった気持ちで四月からの新しい生活を送り望んでいることと思いますが、子どもたちは皆さん以上に、期待と不安が入り交じった気持ちで新学期を待っているのかもしれない。

子どもたちの学びは安心と安定の上になり立ちます。学校における安心と安定の要は先生です。特に小学校においては、児童や保護者にとって、学級担任の先生が誰になるのか、どんな先生なのかは大問題です。学級開きの日、子どもたちは、緊張しながら皆さんの表情や「学級担任になった〇〇です。」の言葉を受け止めます。子どもたちは「いい先生みたい」「一年間このクラスで頑張れそう」と思ってくれるかどうかを左右する一瞬かもしれません。勿論、この一瞬ではありませんが、子どもたちが抱いた第一印象を覆すには時間と努力を要します。

教師力の一つに子どもを受容する力がありますが、子どもを受け入れられない人は教師には向きません。『我以外皆師』吉川英治著「宮本武蔵」にある言葉ですが、例え子どもでも、専門的な知識のない人であっても、自分に何かを教えることができる師として尊べという教えます。教師は教えることが仕事ですが、子どもたちから学ぶことも少なくありません。一人一人を尊重して接することが、信頼関係を築き、子どもたちの心の安定と良き学びに繋がります。

4月に入った途端、今まで経験したことがないハードな日々が続くと思いますが、心身には十分留意し、教師生活を楽しんでください。



#### 編集後記

本号で28年度のセミナー通信は終了です。後期アンケートでは、「知りたい情報があり、やる気ができた」「教探や現場で使える情報があり参考になった」等の言葉が多く寄せられました。今後とも、皆さんの思いを大切にしながら紙面づくりに取り組んでいきます。一年間ありがとうございました。